

## 第3期

# 「みんなで作るこれからのかんだ」プラン

2024~2028年



「みんなで作るこれからのかんだ」プラン策定委員会

# 目 次

<b>1. 計画の概要</b>	
▶策定の背景	p. 3
▶計画の位置づけ	p. 3
<b>2. 計画策定に関わる情報</b>	
▶第2期計画期間をふり返って	p. 4
▶神田地区福祉データ	p. 4
▶アンケート調査結果より	p. 9
▶福祉懇談会より	p. 11
<b>3. 理念と基本目標</b>	
▶理念と基本目標	p. 12
▶基本目標1「気楽につながる交流を続けよう」	p. 12
▶基本目標2「安心できる居場所をつくっていこう」	p. 12
▶基本目標3「普段のつながりを大切にして見守りあおう」	p. 13
▶基本目標4「お互いに支えあえる地域にしよう」	p. 13
▶基本目標5「気楽に相談できる関係をつくろう」	p. 14
▶基本目標6「災害の意識を持ち、備えよう」	p. 14
<b>4. 計画の推進方法</b>	
▶計画の推進方法・体制	p. 15
<b>5. 計画策定に関わる資料</b>	
▶計画推進に関わる作業概要（日程）	p. 16
▶計画推進委員会名簿	p. 17

## 1. 計画の概要

### ▶策定の背景

#### ◆地域福祉は次の段階へ

神田地区では、平成28年に「第1期みんなで作るこれからのかんだプラン」を策定、さらに平成31年3月には「第2期みんなで作るこれからのかんだプラン」を策定し、「気楽につながるまちかんだ」を基本理念に様々な活動に取り組み、展開してきました。

しかしながら、この間にも、神田地区においても高齢化率が徐々に増加し、ひとり暮らし高齢者や要介護認定者、しょうがい者など、支援を必要とする人が増加してきています。また、隣近所間のつながりの希薄化や地域活動の担い手の減少など、これまでの計画から継続して取り組む必要性のある課題があります。

また一方で、新型コロナウイルスの影響などから、生活に困窮している方、ひきこもりなど、地域の中で孤立してしまっている人の課題など、新たな課題も浮かび上がり、国を挙げた「地域共生社会」の推進を図っているところです。

このようなことから、地域福祉をさらに発展的に推進し、かつ新たな課題への対応を図っていくために「第3期みんなで作るこれからのかんだプラン（以下、「第3期計画」という。）」を策定します。

### ▶計画の位置づけ

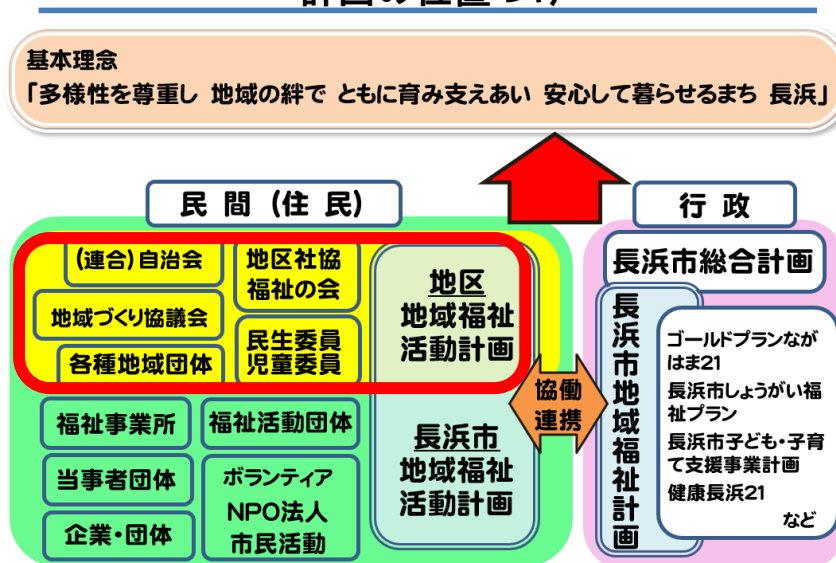
#### ◆地区、市のエリアを活かした一体的な計画

「みんなで作るこれからのかんだ」プランは、長浜市地域福祉活動計画と連動し「住民参加」による活動・実践と行政や関係機関・団体との「協働」を図りながら、福祉課題の解決を目指し、「住民主体による福祉のまちづくり」を進める計画です。

「長浜市地域福祉活動計画」と一体的に策定することで、市域、地区域のエリアによる活動メリットを最大限活かせる活動展開を計画します。

また、長浜市が策定する行政の地域福祉に対する施策計画である「長浜市地域福祉計画」と連携・協働し、公民協働による地域福祉を推進します。

### 計画の位置づけ



## 2. 計画策定に関わる情報

### ▶第2期計画期間をふり返って

神田地区では、平成31年に「みんなでつくるこれからのかんだプラン」を策定し、“気楽につながるまち かんだ”をスローガンとし、4つの基本目標に沿って、子どもから高齢者まで様々な世代の地域福祉に関する取り組みを進めてきました。

◆基本目標① 居場所と交流の場から気楽な関係をつくろう

◆基本目標② いざという時に備えた日ごろからの見守り活動

◆基本目標③ お互いに支えあえる地域づくり

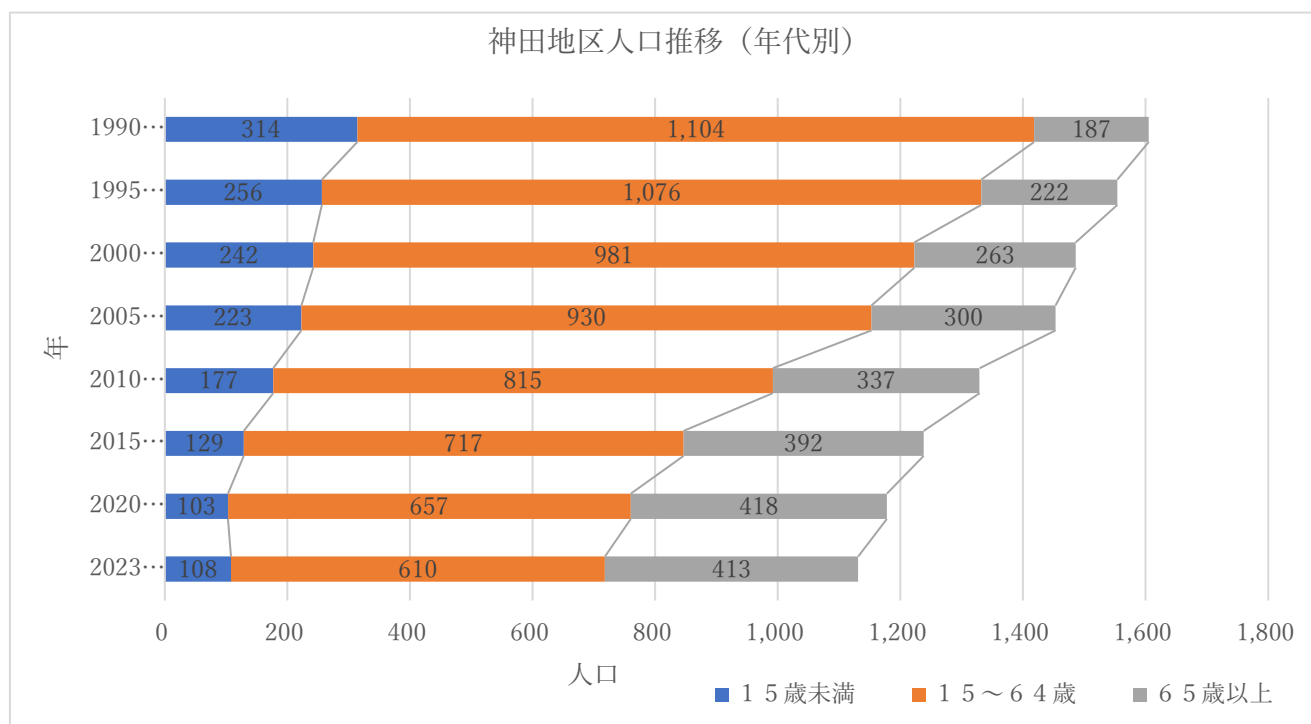
◆基本目標④ 活動を支える基盤づくり

交流事業等は多くの企画を予定していましたが、長引くコロナ禍の影響により中止となった事業が多く、地域住民の交流を図る機会は減少しました。全体で大人数での集いが難しい状況でしたが、個別訪問等を見守り活動に力を入れ、住民が安心して暮らせる地域づくりの推進を図りました。福祉委員活動の認識を高め、民生委員児童委員や自治会、福祉委員が連携して見守り活動を推進できるよう、毎年研修会を開催するなど、新たな試みも行うことができました。

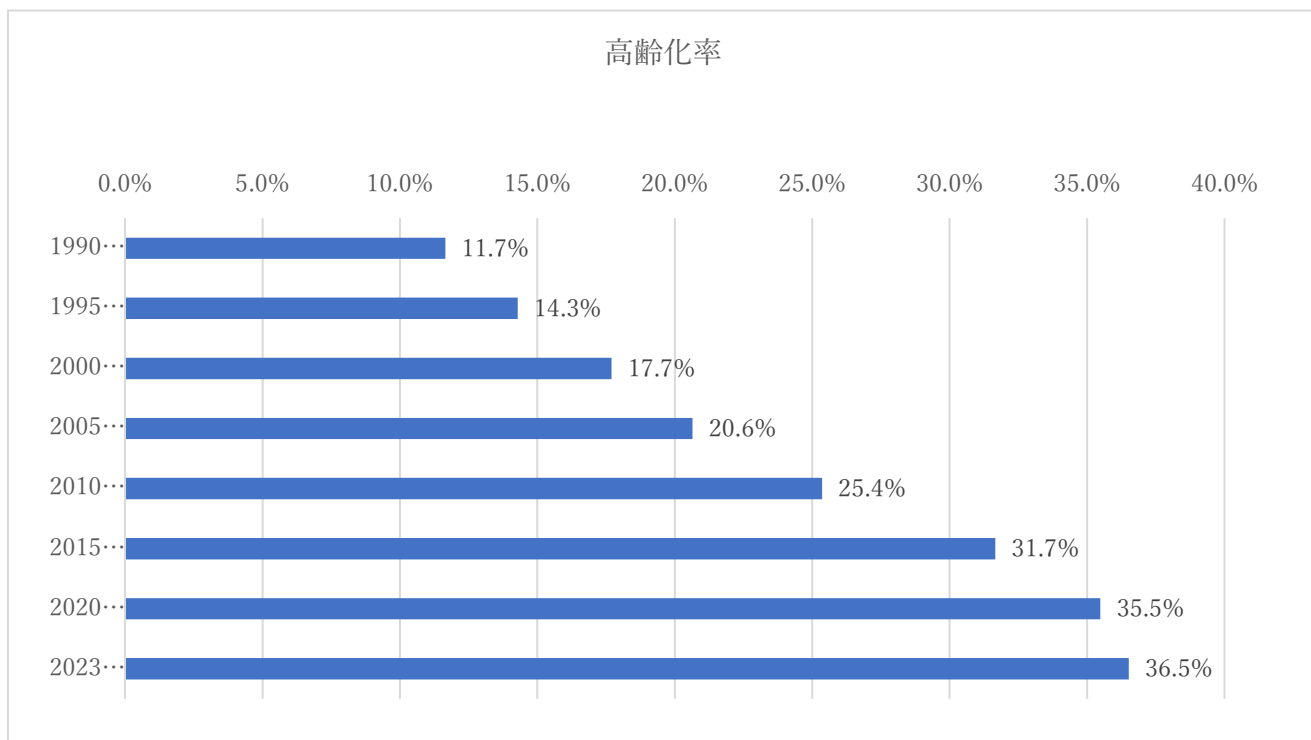
一方、少子高齢化の影響もあり、各活動の次世代の担い手不足が課題となっています。また、若い世代の地区離れが進み、独居高齢者宅や空き家の増加が深刻化しています。今後も地域住民が安心して暮らせる地域づくり、多世代が活躍できる活動創出が必要とされています。

### ▶神田地区福祉データ

#### ◆人口と推移

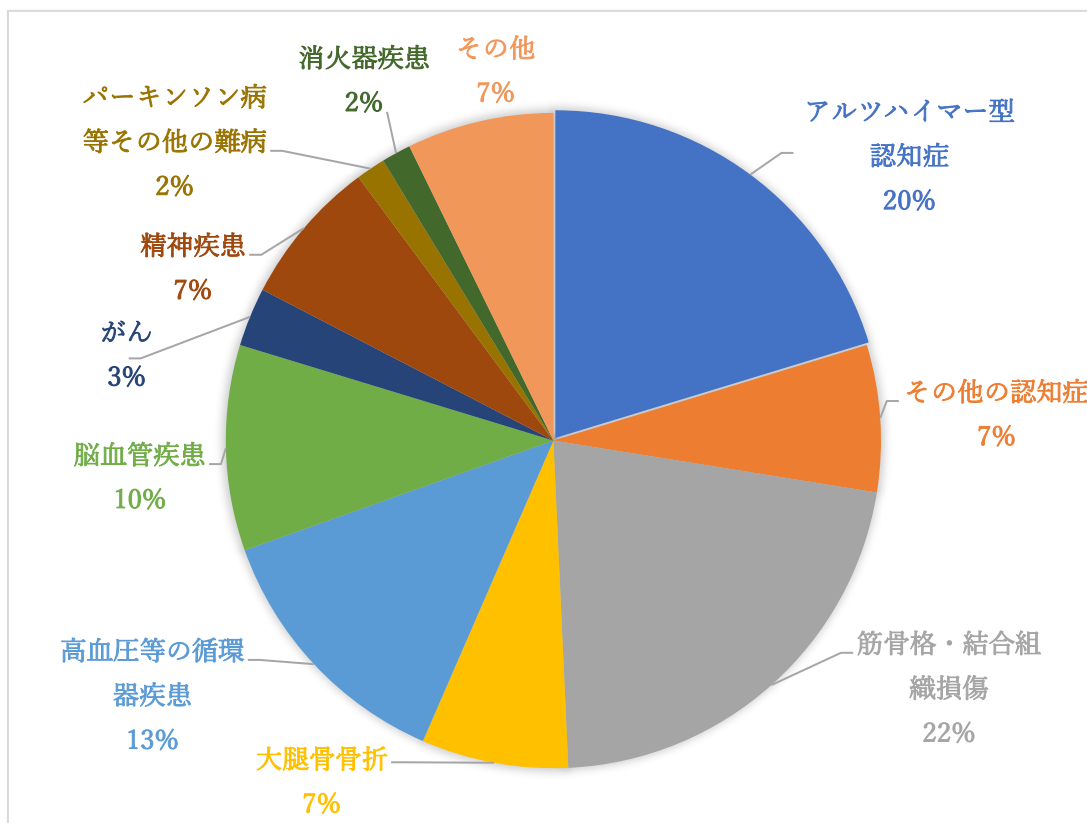


◆高齢化率



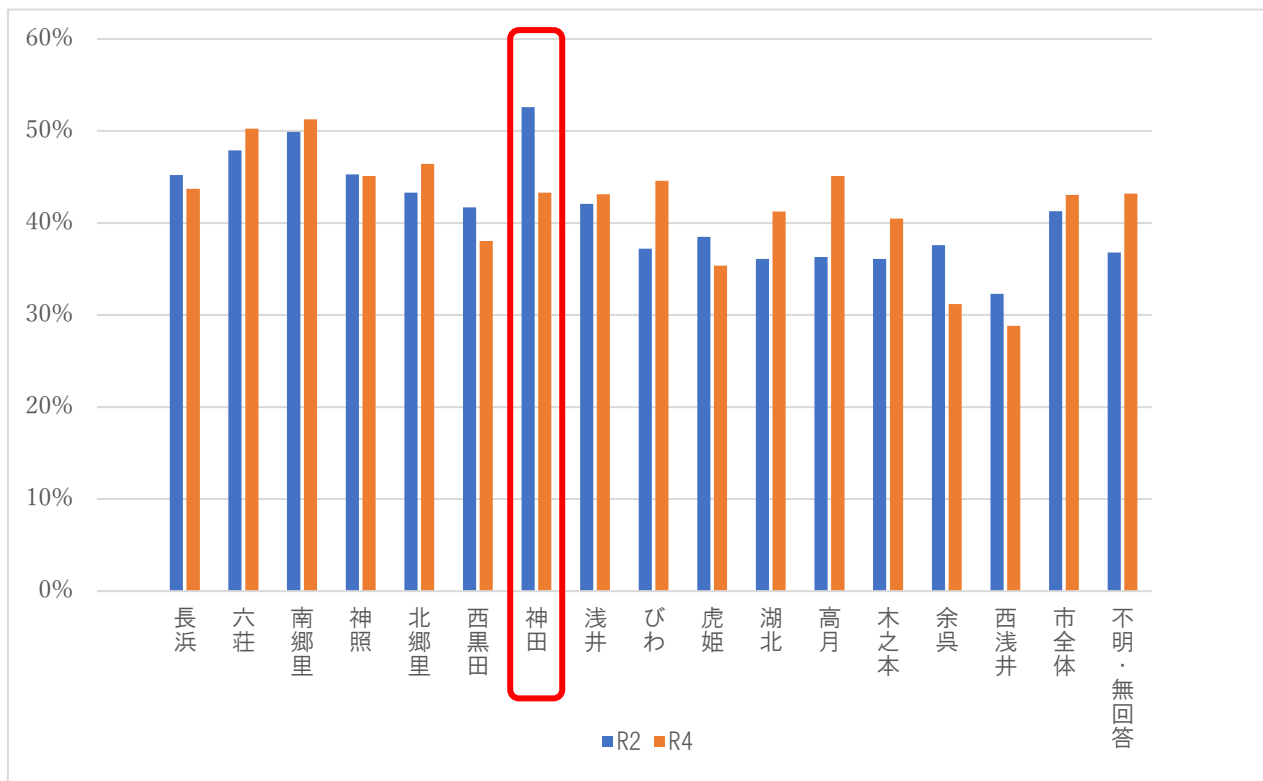
◆要介護認定原因疾患（令和5年4月）

※長浜市長寿推進課資料

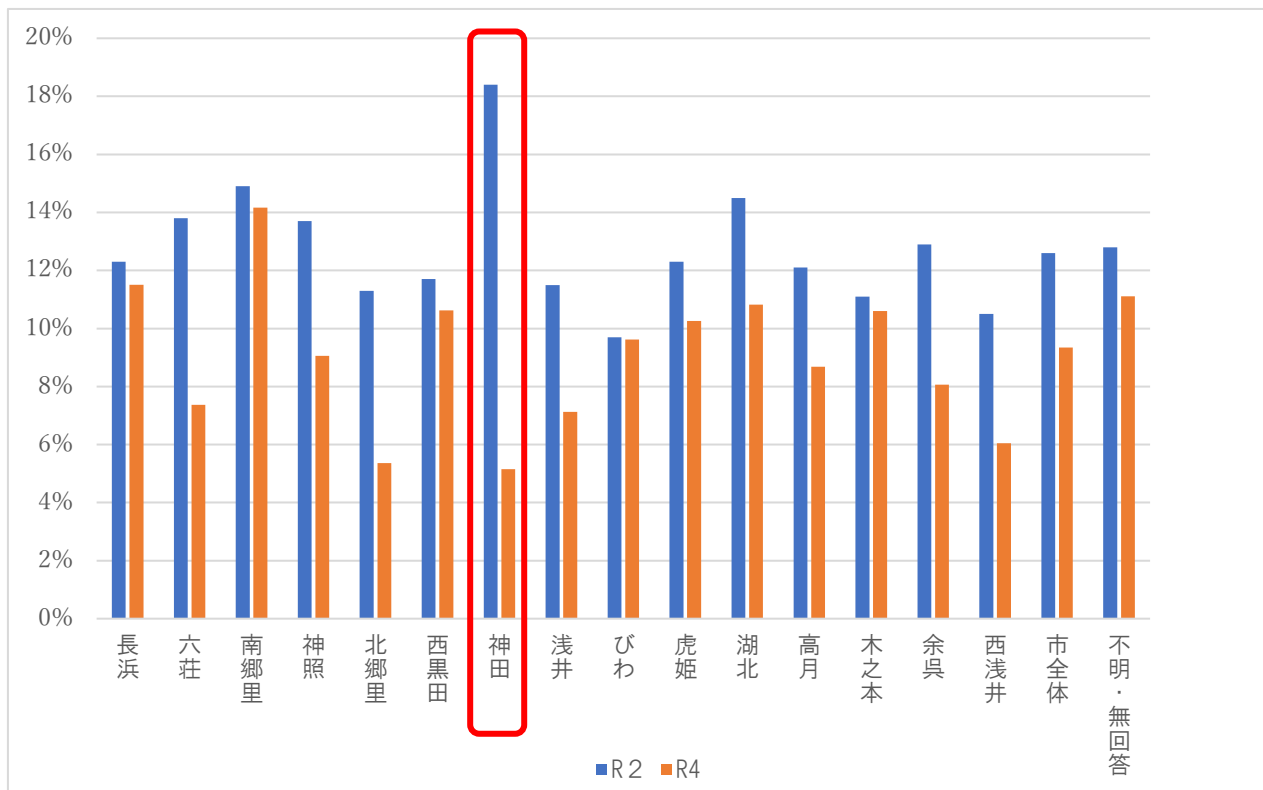


◆長浜市高齢者実態調査 ※長浜市長寿推進課資料

- ・あなたや家族が認知症になった場合、近所の方に「知ってもらう」ことについて「自分や家族の認知症を知られたくない・または知らせる必要はない」の回答

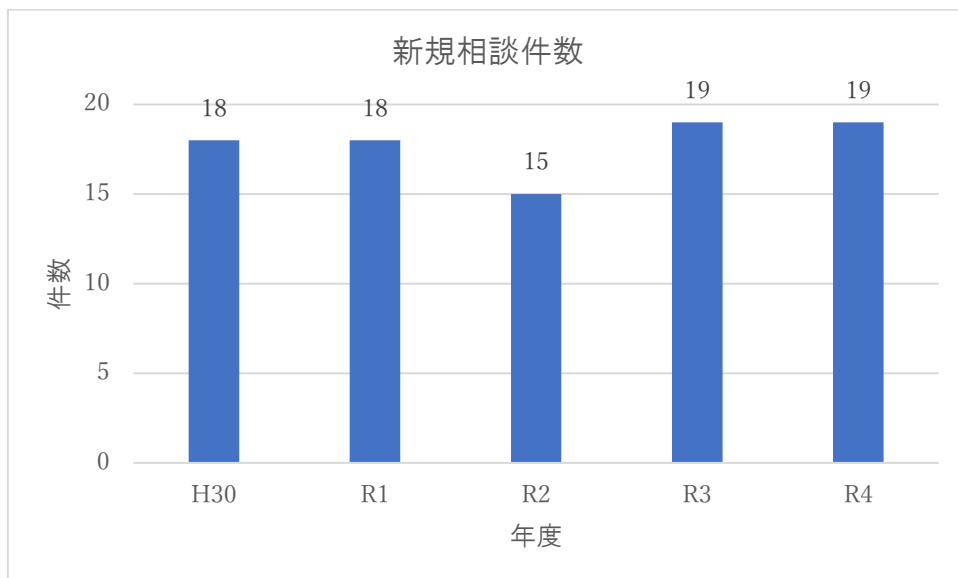


- ・身近な人に認知症の疑いがあるとき、まずどこに相談するか「どこに相談したらいいかわからない」の回答



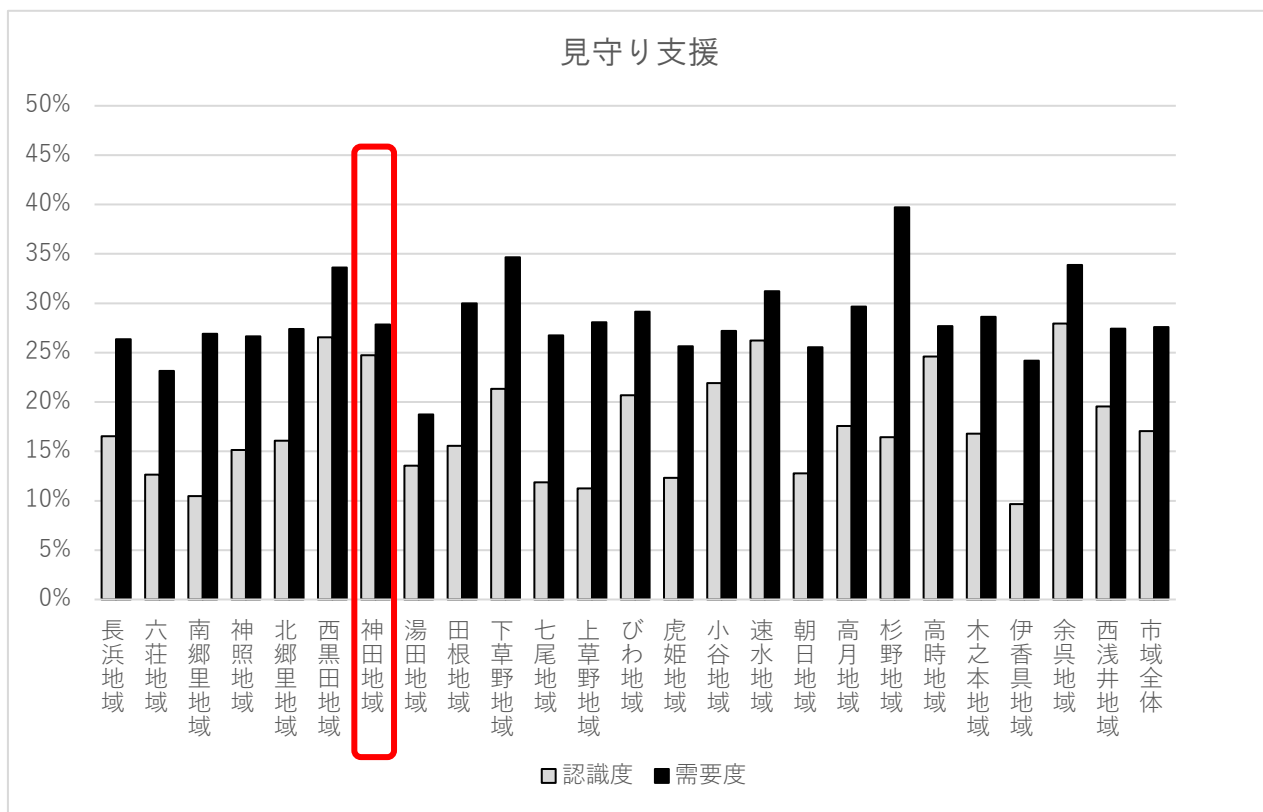
◆地域包括支援センターへの新規相談件数

※南長浜地域包括支援センター調査

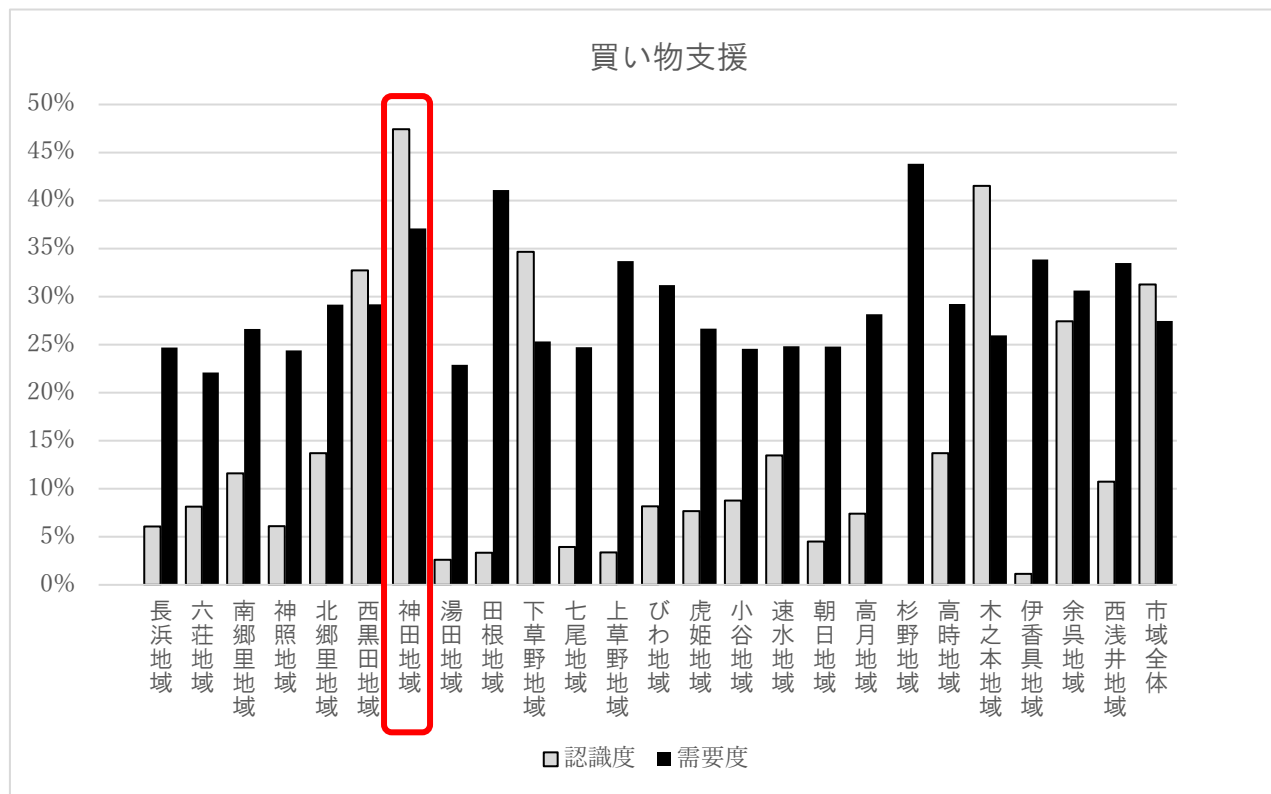


◆長浜市「高齢者実態調査」(令和4年)

※長浜市長寿推進課資料







年代別人口推移や高齢化率推移より、少子高齢化が急速に進んでいることがわかります。高齢者実態調査では、要介護認定を受ける高齢者の原因疾患では認知症が27%となっており、市内平均26%よりも僅かですが高い結果になっています。

地域で「自分や家族の認知症を周囲の人に知られたくない」「知らせる必要はない」と答えた人の割合については、令和2年度調査では52.6%でしたが、令和4年度調査では43.3%と減少しました。「認知症についてどこに相談したらいいかわからない」との回答については、令和2年度調査では18.4%でしたが、令和4年度調査は5.2%となり、こちらも減少しました。令和2年度はそれぞれ市内で最も高い状況でしたが、認知症啓発や相談先周知の取り組みを継続したことにより、令和4年度の減少につながったと考えられます。ただ、地域包括支援センターへの新規相談件数については、増加が見られない状況です。要介護認定の原因疾患で認知症の割合が高いことから、周囲や専門職に相談できず家庭で抱え込んでいる人はおられると考えられ、今後も継続して取り組む必要がある状況です。

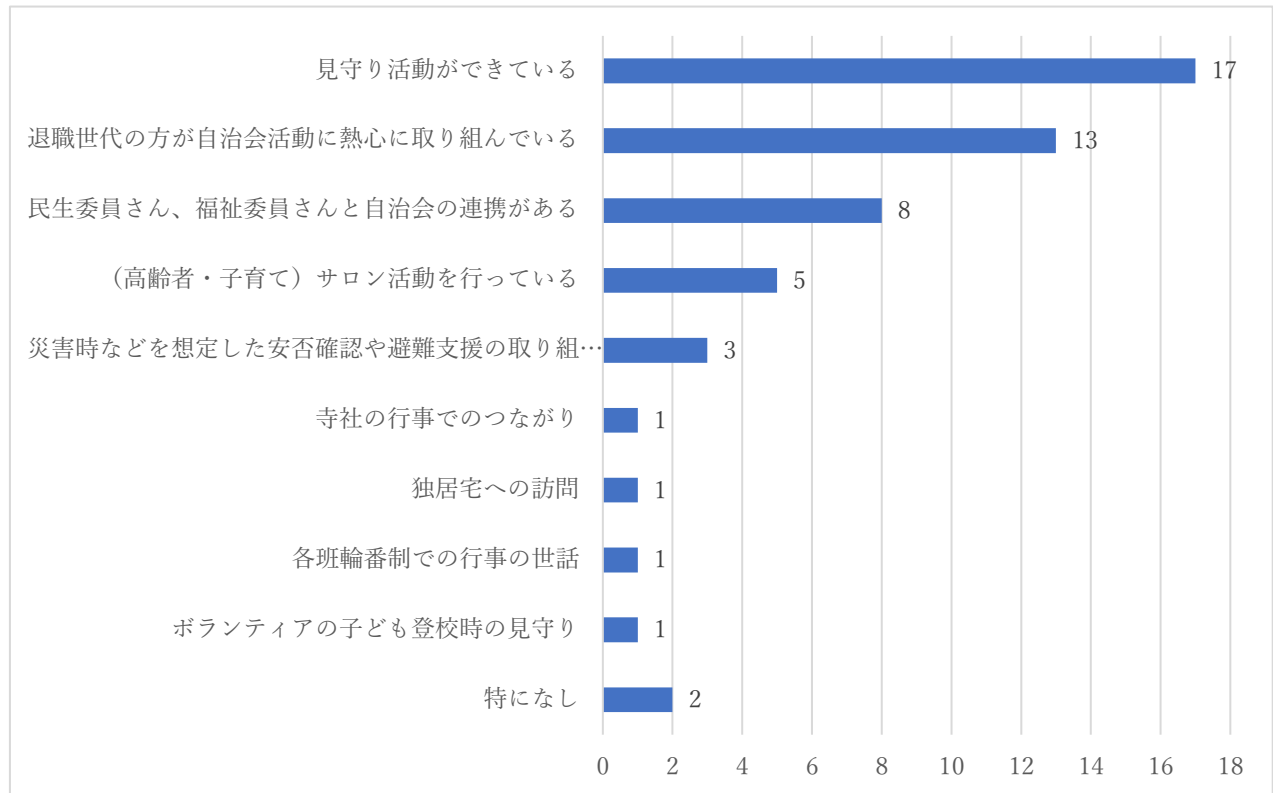
見守り支援については、命のバトン、避難支援・見守り支えあい制度、民生委員児童委員による定期的な訪問などから、認識度は市内でも高くなっています。今後の需要度についても、他地区と同様に必要と感じておられる方が多くなっています。

高齢者の生活支援活動として、「かんだサポート会」が毎週お買い物ツアーを実施されていることから、買い物支援の認識度は市内で最も高く、将来の需要度についても引き続き必要であると考えられる回答が多くなっています。

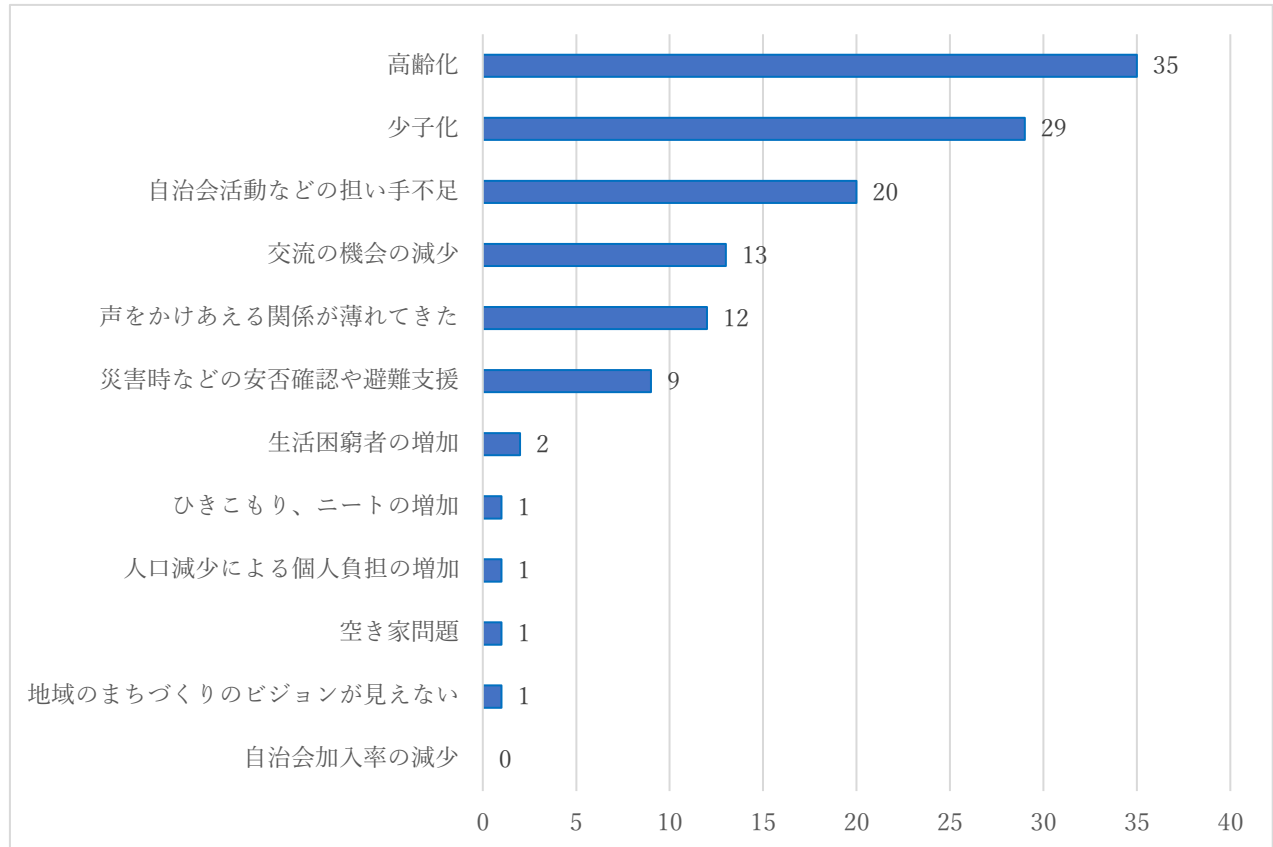


▶アンケート調査結果より

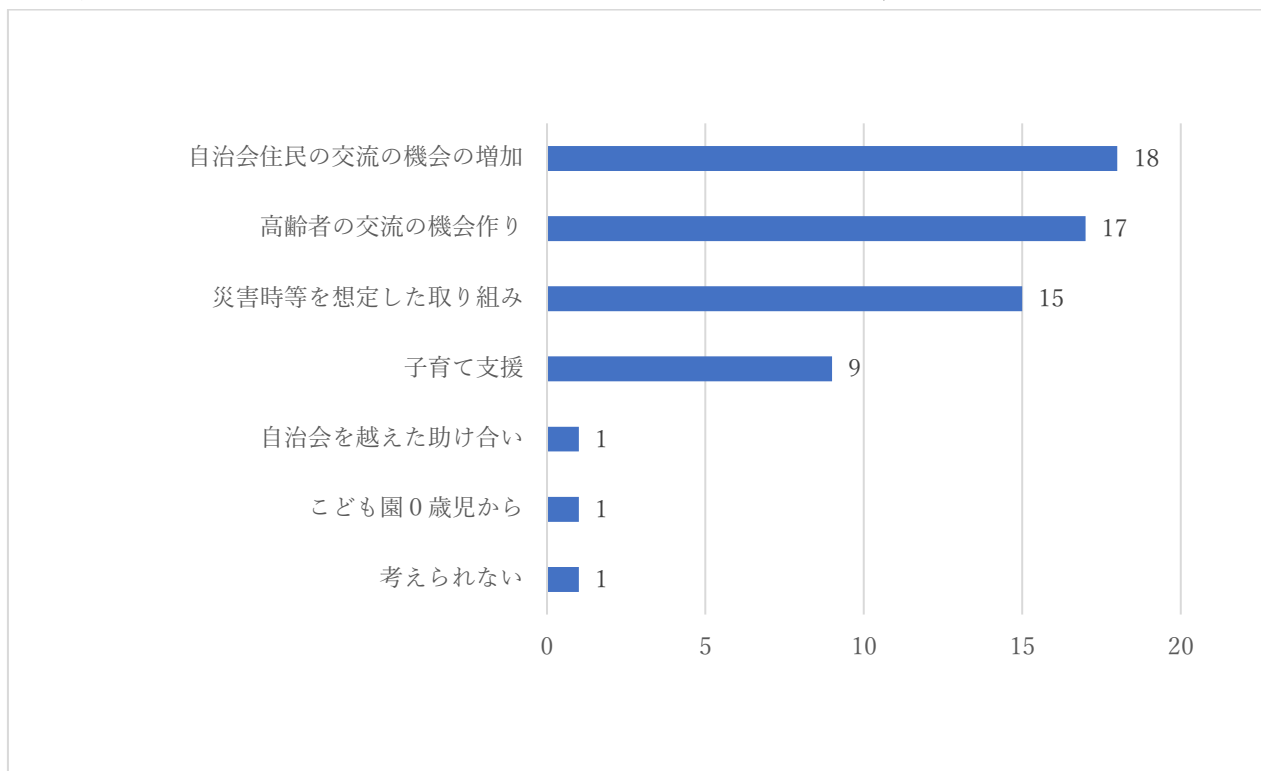
◆自治会・担当地域の（福祉的な）強み良いところ（複数回答可）



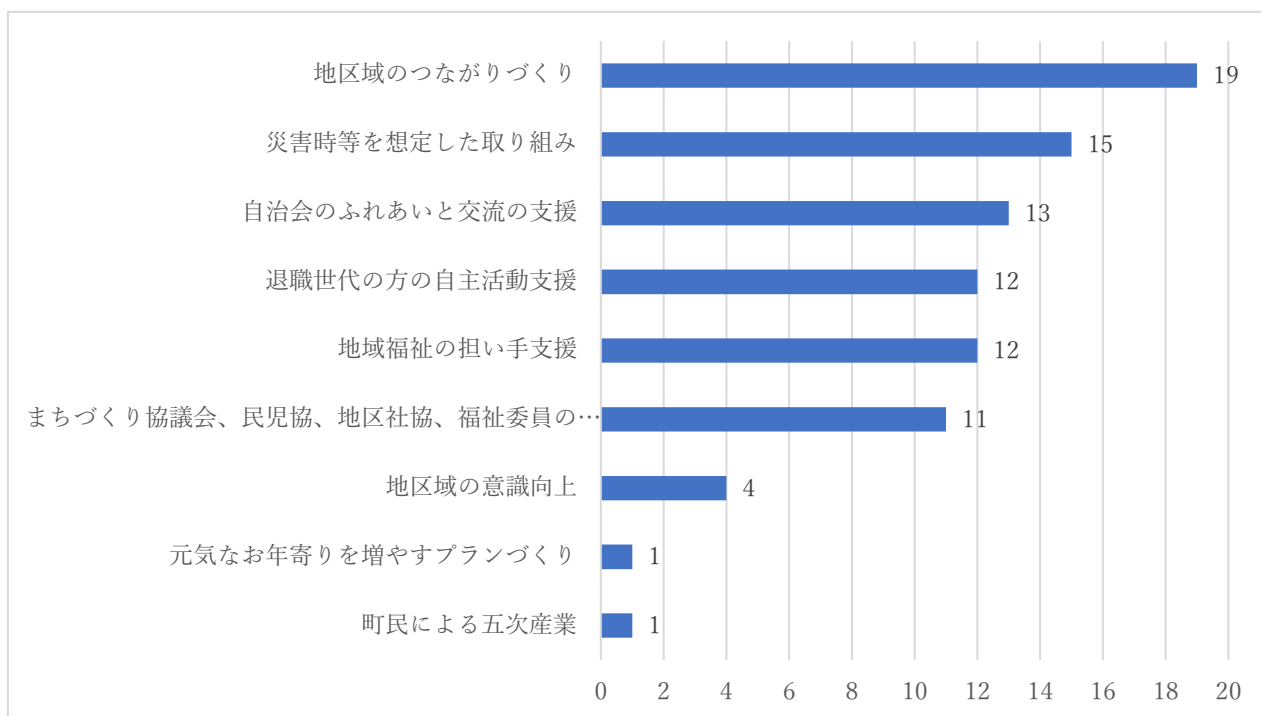
◆神田地区の（福祉的な）課題（複数回答可）



◆今後自治会・担当地域にはどのような取り組みが必要か（複数回答可）



◆神田地区社協に求めること（複数回答可）



アンケート結果からは、少子高齢化がすすむ神田地区において、今後も地域住民がつながり交流できるような取り組みや、災害時を想定した見守り活動等が重要であるという意見が多くありました。また、各活動での役員への負担が大きく担い手不足にもつながるため、継続しやすい活動のあり方を検討する必要があると考えられます。

## ▶福祉懇談会より

令和5年7月に福祉懇談会を開催し、各団体代表者等による意見交換会を行いました。「第3期長浜市地域福祉活動計画」の8つの基本目標の中から4つのテーマを設定し、個人、自治会単位、地区全体の3段階の規模で今後どのような取り組みが必要かについて検討した結果、下記のような意見がまとめられました。

### 1) 開催日時

令和5年7月29日(土) 14:00~15:30

### 2) 出席者

神田地区社会福祉協議会評議員、神田地区まちづくり協議会、民生委員児童委員・主任児童委員、福祉委員、自治会長、赤十字奉仕団、更生保護女性会

### 3) テーマ

#### ◆人と人とのつながりを深める居場所づくりについて

個人規模では隣近所の人や同級生等との会話の場、自治会規模ではサロン等、地区全体ではまちづくりセンターの学び座や趣味活動の集まり等、それぞれの規模における集いの場の充実や参加しやすい企画が重要となります。また、年代の近い人と集うだけでなく、子どもたちも含め地域住民が誰でも集まれる機会の創出についても、地区住民のつながりを深めるために重要な居場所になると考えられます。

#### ◆身近な暮らしの困りごとを相談できる地域づくりについて

身近に困りごとを抱える人がいれば、まず自治会長や民生委員等につなぎ、長浜市社会福祉協議会や地域包括支援センター等の専門職と連携を図る中で課題解決を図る、という流れをベースに置くことが重要です。そのうえで、困りごとを抱える人が周囲に相談しやすいよう、日ごろから個人や自治会の規模で気軽に話せる関係づくりに取り組みます。また、「助けて」と言いづらい人のサインに気づけるよう、普段と異なる様子がないか気にかけて関わります。困りごとの内容に応じて、生活支援活動団体「かんだサポート会」の活動につなぐという方法も考えられます。

#### ◆災害時を想定した地域の支えあい体制づくりについて

神田地区はこれまで災害が少ない地区でしたが、近年の異常気象による災害に備え、特に地震や大雨、火事等を想定した準備が必要だと考えられます。備蓄は個人や自治会、地区の各単位でそれぞれに確保が必要です。また、災害時に支援が必要な人の迅速な救助に備え、近所間で就寝場所の確認等の情報共有を行うことが重要です。各戸の家族形態等、個人情報については自治会が把握していますが、災害時には確実に活かせるよう体制を整えることも必要不可欠であると考えられます。

#### ◆自治会や地区全体の連携による見守り活動について

日ごろからお互いに挨拶や声かけを行うことが大切であるといえます。また、畑仕事やグラウンド清掃活動など、人と出会う場面を見守り活動の機会として気にかけてあげようとも考えられます。

神田地区では、各自治会において組長・班長が福祉委員を担っていますが、1年交代ということもあり、福祉委員の認識や実際の活動がほとんどないままになってしまっています。見守り活

動の要ともいえる福祉委員活動について、もう少し体制を整えていくことが必要であると考えられます。

### 3. 理念と基本目標

#### ▶理念と基本目標

##### 1) 基本理念

第2期計画のスローガンとしていた「気楽につながるまちかんだ」を引き継ぎ、引き続き住民参加による地域福祉を推進します。

##### 2) 基本目標

第2期計画では、神田地区内の地域福祉を4つの基本目標に整理し、活動の充実・発展を目指してきました。第3期計画においては、この4つの基本目標の内容を引き継ぎながら、第2期計画期間中の活動や社会情勢に合わせた活動を盛り込み、新たに6つの基本目標とすることで、さらなる活動の推進を計ります。

#### ▶基本目標①「気楽につながる交流を続けよう」

##### 1) 基本目標の目指す姿

神田地区では、子どもから高齢者まで町民全体で参加できる行事が多く、まちづくりセンターを中心としてサークル活動、体操教室、ウォーキングなど多くの活動があります。各自治会とまちづくりセンターとの距離も近いことから、同じ自治会の人や同世代だけでなく様々な人と交流する機会が創出でき、地域のネットワーク構築にもつながります。

コロナ禍で減少した交流の機会を再度見直し、現状に合った形で開催することにより、地域住民のつながりづくりの推進と活動者の育成に取り組みます。

##### 2) 取組内容

###### ■子どもから高齢者まで、みんなが楽しめる交流をしよう！

- ・ 神田ふれあい夏祭り
- ・ 神田地区文化祭
- ・ 町民親善ポーリング大会

###### ■活動に参画することで、生きがいをつくろう！

- ・ 趣味特技を活かした、仲間づくり・出番づくり・役割づくり
- ・ 退職世代を中心とした、新しい試み

#### ▶基本目標②「安心できる居場所をつくっていこう」

##### 1) 基本目標の目指す姿

自宅以外で安心して過ごせるサロン等の居場所は、孤立を防ぐ役割、またレクリエーションやおしゃべりなどをすることによる健康維持増進の効果も期待されます。また、子育て世代など若い世代が気楽に集える場の創出により、同じ世代で悩みや思いを共有し、親も子も地域でのつながりができ安心できる生活につながります。このように、参加者どうしの理解や共感を深め、日常生活の安心・楽しみとなる活動の一つとして、居場所づくりの推進を図ります。

##### 2) 取組内容

###### ■健康で生き生きとした活動に取り組もう！

- ・ 各自治会のサロン支援
- ・ 神田フレンズ（転倒予防教室）

・子育てサロン ・サロン交流会（広域サロン）

・世代ごとの気楽な集まりの場の創出

■ふれあいと支えあいのある地域にしよう！

・新まちづくりセンターを活かした、誰でも集える居場所の創出

・ふれあいサロンスタッフの交流会や情報交換会

▶**基本目標③「普段のつながりを大切にして見守りあおう」**

1) 基本目標の目指す姿

ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者、しょうがいのある人など、地域の中で見守りが必要な人は今後も増加すると予想されます。

見守り活動には、挨拶やおしゃべり、ポストや郵便・電灯の様子から本人に会わずとも安否確認ができるそっと見守りなど、状況に合わせて様々な取り組みが考えられます。班長・組長が福祉委員として近所の方の見守り活動に取り組むなど、地域住民がお互いに普段から関わりを持ち見守りあうことにより、困りごとの早期発見や関係機関との連携を行い、皆が安心して暮らせる地域づくりの推進を図ります。

2) 取組内容

■日ごろからの見守りで安心して暮らせる地域をつくろう！

・在宅福祉夏季・冬季友愛訪問

・命のバトンの登録、更新を活用した見守り活動の推進

・ご近所どうしの見守り

■地域で見守りあえる仕組みをつくろう！

・福祉委員活動の理解の共有と見守り会議の定期的な開催

・認知症等の理解促進と情報共有

・地区見守り活動研修会の実施



▶**基本目標④「お互いに支えあえる地域にしよう」**

1) 基本目標の目指す姿

加齢や病気などによって買い物など日常生活に必要な事柄が困難になったときは、住民同士のお互いに支えあう活動が重要となっています。

神田地区では、生活支援活動団体「かんだサポート会」による買い物ツアーや除草作業等、ちょっとした手助けを必要とする人への支援等に取り組みます。

2) 取組内容

■ちょっとした手助けを住民どうしで行おう！

・かんだサポート会による日常生活支援、買い物支援

・移動販売を活用した買い物支援、見守り

■支えあい活動をみんなで楽しく取り組もう！

・活動内容の定期的な見直しと活動者の育成

・活動者交流会によるつながりづくり

## ▶基本目標⑤「気楽に相談できる関係をつくろう」

### 1) 基本目標の目指す姿

家庭における困りごとは、複雑多様化してきています。困りごとを個人の問題ではなく地域全体の課題と捉え、地域住民、専門職が連携し、解決に向けて話し合える場づくりを進めることが必要とされます。困りごとの内容によって必要な関係機関へとつなぐことができるように、情報共有等を行います。また、「無料市場」では、お互いさんの心で野菜などのおすそ分けや情報提供等を行い、生活困窮など困りごとを抱える人に対するそつと支援に取り組みます。

子育て世代への支援として、地域の子どもたちが食事や遊びをとおして、地域の中で安心して育つことができる子ども食堂などもとても重要な取り組みです。子どもが抱える課題等についても早期発見と解決に向けた取り組みができるよう、開催施設や専門職と連携し事業推進を図ります。

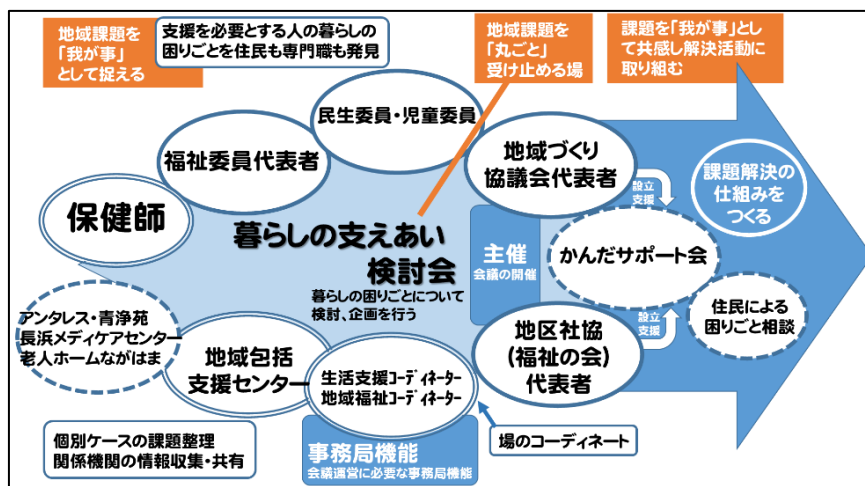
### 2) 取組内容

#### ■気楽に相談できる地域にしよう！

- ・生活相談窓口の周知啓発
- ・無料市場の活用
- ・広報誌「神田通信力」で情報発信

#### ■近隣施設や専門職と住民が連携し、安心して暮らせる仕組みをつくろう！

- ・困りごとを気楽に相談できるつながりづくり
- ・暮らしの支えあい検討会の実施
- ・子ども食堂の協力
- ・各種福祉団体、施設、地域包括支援センター、行政、市社協等との連携



地域の困りごとを普段のつながりや生活相談窓口でキャッチし、「暮らしの支えあい検討会」で住民と専門職が話し合うことで、課題解決に向けた取り組みを行います。

## ▶基本目標⑥「防災の意識を持ち、備えよう」

### 1) 基本目標の目指す姿

近年の異常気象により、災害はいつどこで起きても不思議ではありません。いざという時に備え、日ごろから住民どうしでつながり見守りあう体制づくりが重要となります。

これまで災害の少なかった神田地区において、住民一人ひとりが防災の意識を高め、必要な備えを行えるよう、取り組みの推進が必要とされています。

## 2) 取組内容

### ■防災の意識を高め、いざという時に備えよう！

- ・ 防災研修会の開催
- ・ 災害時を想定した安否確認や避難支援の仕組みづくり

### ■お互いに支えあえる体制を整えよう！

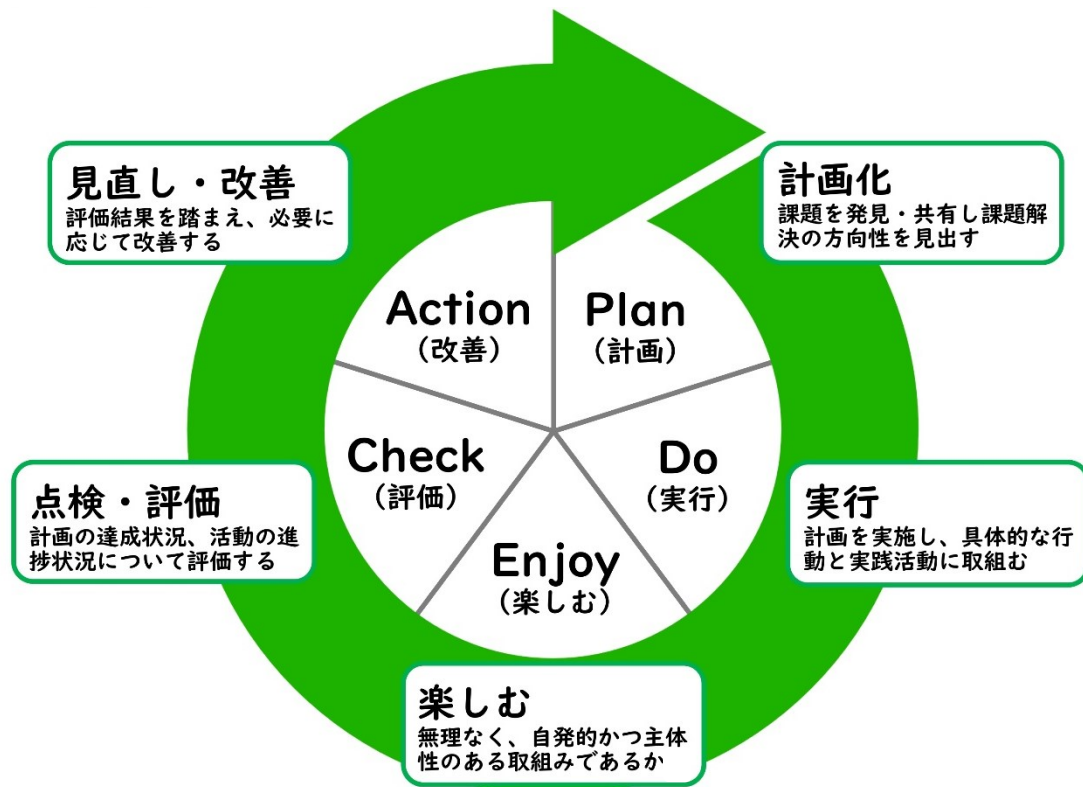
- ・ 防災・福祉マップの取り組みと自治会内の情報共有
- ・ 日ごろからの関係づくり

## 4. 計画の推進方法

### ▶計画の推進方法・体制

計画の実効性を高め、円滑で確実な実施を図るため、神田地区社会福祉協議会を中心に各関係団体と連携し、計画の適切な進行管理を図ります。定期的に計画の進捗状況や達成度を把握、評価し、必要に応じて適宜見直しを行います。

常により良い活動や取り組みを推進するPDCAサイクルに「E (Enjoy) 楽しむ」の要素を盛り込み、地域住民が楽しさを感じながら無理なく地域福祉活動の推進に取り組める体制を整えます。





## 5. 計画策定に関わる情報

### ▶計画策定に関わる作業概要（日程）

会議名	実施日	内容
第1回コアメンバー会議	令和5年4月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第3期プランについて説明</li> <li>・基本理念と基本目標について</li> <li>・策定体制、手法について</li> <li>・策定スケジュールについて</li> </ul>
第1回策定委員会	令和5年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第3期プランについて説明</li> <li>・基本理念と基本目標について</li> <li>・策定体制、手法について</li> <li>・策定スケジュールについて</li> <li>・アンケート内容の協議と依頼</li> </ul>
第2回コアメンバー会議	令和5年7月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門職との顔合わせ</li> <li>●福祉懇談会について協議</li> <li>・日時、内容について</li> <li>・参加対象者、案内方法について</li> </ul>
福祉懇談会	令和5年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意見交換会</li> <li>●アンケート結果について</li> <li>●専門職の紹介</li> </ul>
第3回コアメンバー会議	令和5年8月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区データ分析</li> <li>●福祉懇談会ふり返り</li> <li>●基本目標について</li> </ul>
第4回コアメンバー会議	令和5年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画素案について</li> </ul>
第5回コアメンバー会議	令和5年11月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画素案（修正案）について</li> <li>●ダイジェスト版の内容について</li> <li>●市活動計画への掲載内容について</li> </ul>
第2回策定委員会	令和5年11月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画素案について</li> <li>●全体について意見交換</li> </ul>
第6回コアメンバー会議	令和6年1月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイジェスト版の校正</li> <li>●長浜市地域福祉活動計画本誌への掲載内容について</li> </ul>

▶第3期「みんなでつくるこれからのかんだ」プラン策定委員会名簿 ※：コアメンバー

	所属	氏名		兼任	
1	神田地区社会福祉協議会	芳井 悦雄※	35	福祉委員	橋本 和子
2	神田地区社会福祉協議会	茂森 忠司	36	福祉委員	辻川 作男
3	神田地区社会福祉協議会	伊藤 喜久雄	37	福祉委員	小八木 康貴
4	神田地区社会福祉協議会	茂森 利洋	38	福祉委員	中川 浩二
5	神田地区社会福祉協議会	畑澤 英明	39	福祉委員	伊藤 悦応
6	神田地区まちづくり協議会	小川 幸男	40	福祉委員	和泉 拓司
7	自治会長	首藤 英一	41	福祉委員	伊藤 浩行
8	自治会長	伊藤 金幸	42	福祉委員	伊藤 隆男
9	自治会長	北川 寛	43	福祉委員	磯崎 吉伸
10	自治会長	中川 涉	44	福祉委員	西川 博久
11	自治会長	大橋 伸一	45	福祉委員	藤居 義信
12	自治会長	北川 良浩	46	福祉委員	藤居 逸史
13	加田町会議所総代	中川 眞澄	47	福祉委員	岩崎 俊紀
14	老人クラブ連合会会長	中野 益男	48	福祉委員	高橋 千里
15	子ども会連合会会長	奥田 和孝	49	福祉委員	松川 高子
16	神友会代表	大橋 徹	50	福祉委員	森 隆夫
17	民生委員児童委員協議会	松本 尚樹※	51	福祉委員	金時 寿彦
18	民生委員児童委員協議会	小中 賢二	52	福祉委員	喜多 シズ子
19	民生委員児童委員協議会	山岡 陽子	53	福祉委員	北村 哲哉
20	民生委員児童委員協議会	田中 茂樹	54	福祉委員	原田 光博
21	長浜赤十字奉仕団団長	後藤 博子	55	福祉委員	山岡 薫
22	更生保護女性会文区長	伊藤 信子	56	福祉委員	古山 徳昭
23	福祉委員	宇野 行雄	57	福祉委員	西田 秀夫
24	福祉委員	中川 泰男	58	福祉委員	鎌田 満
25	福祉委員	伊藤 清男	59	福祉委員	谷ノ上厚
26	福祉委員	田中 忠右エ門	60	かんだサポート会	森 勘十
27	福祉委員	西堀 良行	61	かんだサポート会	藤居 千枝子
28	福祉委員	中川 邦宏	62	かんだサポート会	中野 祥子
29	福祉委員	桐山 一博	63	かんだサポート会	野本 孝造
30	福祉委員	坂東 義之	64	かんだサポート会	藤居 久美子
31	福祉委員	桂 憲治	65	かんだサポート会	畑澤 誠一郎
32	福祉委員	村田 徹也	66	神田まちづくりセンター	伊藤 義弘
33	福祉委員	堤 雅哉	67	神田まちづくりセンター	藤居 徳昭※
34	福祉委員	大橋 正雄	68	神田まちづくりセンター	西堀 美津子※